

蒲生干潟の地形調査③①

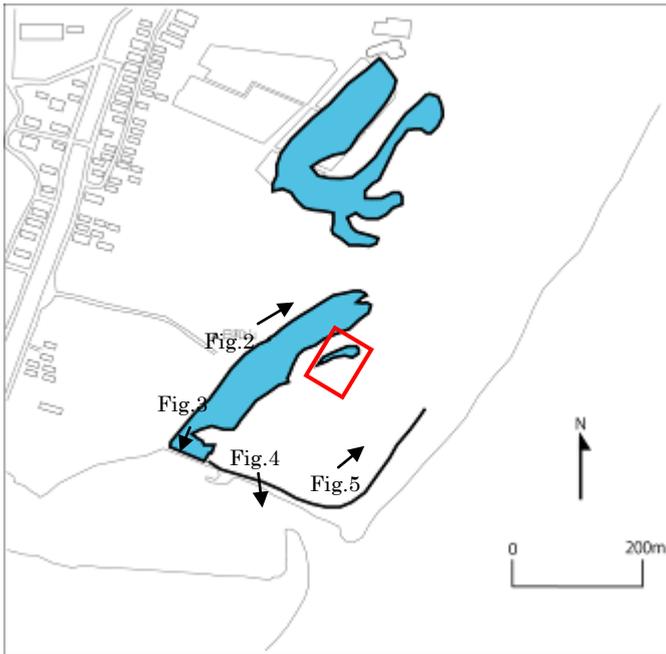


Fig.1 GPSによる簡易測量結果



Fig.2 大きく分断された潟湖（南側より撮影）



Fig.3 導流堤通水部分の工事の様子



Fig.4 侵食により砂州が縮小した右岸（北側より撮影）



Fig.5 海岸線に広がる風紋（南側より撮影）

調査日 2018年3月15日（木）14:00～15:30 ※満潮時刻14:20（潮位124cm）

Fig.1で実線で示された部分はGPS簡易測量による3月の汀線である。満潮時間帯の調査にもかかわらず潟湖の水位は全体的に低く、潟湖は大きく3つに分断されていた（Fig.2）。2017年1月に初めて潟湖の分断が確認されてから最も分断された面積が広く、□で囲まれた部分の孤立も初めて確認した。

蒲生調査レポートNo.162でも報告されたとおり、導流堤通水部分の工事が行われており、今まであった通水部分にパイプが埋められ通水できるようになっていた（Fig.3）。河口付近では右岸も左岸も大きく侵食が進み砂州は縮小しており（Fig.4）、河口が大きく広がっていた。海岸線の傾斜は非常になだらかであり、西風によってできた風紋が見られた（Fig.5）。

（中田 晋）